

瀬川 愛美

はじめに

本研究では、物の音や動物などの声を人間の分節音で表す「擬音語」、音を伴わない動きや様子を言語音の感覚で表す「擬態語」を総称して、オノマトペと呼ぶ。

フランス語を母語とする日本語学習者にとって、日本語で最も難しいものの一つに「オノマトペ」がある。この傾向は、日本語からフランス語への翻訳を生業にする人にとっても、例外ではないと聞く。習得が困難な要因の一つに、オノマトペという言葉の概念が日本語とフランス語では異なることがあるのではないかと考える。日本語の「オノマトペ」とそのもとになったフランス語 *onomatopée* を比較すると、フランス語においては基本的には「音」に関する語のみを指し、日本語の擬態語に当たるものは想定されていない¹。この違いを踏まえて、具体的に、日本語のオノマトペにあたるフランス語はどのようなもの

¹ Enckell, Pierre et Pierre Rézeau (2003)は、オノマトペを次のように定義している（和訳は、稿者）。

L'onomatopée est un "mot" imitant ou prétendant imiter, par le langage articulé, un bruit (humain, animal, de la nature, d'un produit manufacturé, etc.). (p.12)

(オノマトペは分節言語によって（人間の、動物の、自然による、人工物による等の）音を模倣する、もしくは模倣するとされている語である。)

か、また、日本語オノマトペとフランス語が対応しないのはどのような場合かの分析を進めていく必要がある。が、日仏オノマトペの対照研究は盛んであるとは言えず、また、日本語オノマトペがどのようにフランス語にあたるのかを知るためのコーパスやデータベースも存在していない。

そこで、研究の目的は次の2つとする。第一に、日仏語オノマトペのデータを収集し、得られた例文を対比して、どのような対応関係が観察できるかを検証し、第二に、日本語オノマトペの構成要素ごとに訳出されたフランス語の統一性が図られているかどうか分析することである。

日本語のオノマトペの定義と枠組みは、小野正弘編(2007)『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』に基本的にならう。本辞典は、現在存在するオノマトペ辞典のうち、約4500語と収録語数が最も多く、用例も豊富である上、他のオノマトペとのニュアンスの違いや使い分け方などの解説が大変詳しい。さらに、オノマトペの区分も細かくされている。

また、小野正弘(2009)は、オノマトペの語形による解説を次のように整理している。

「ッ」、非常に瞬間的な区切り目がつくというニュアンスを表わす。

「リ」、一連の動作や状況をひとまとまりのものとして表現して、落ち着いたニュアンスを表わす。

「ン」、音や動作・状況がとりあえず終わりはするが、その結果や余韻が残るというニュアンスを表わす。

「もと」の繰り返し、今まさに続いているというニュアンスを表わす。²

本論文では、上の区分から、「ッ」つまり促音付加に絞り、オノマトペとそれらにあたるフランス語をフランス語翻訳版から抽出し、具体例をあげて考察を加える。促音付加に限定したのは、これが、瞬間的な区切りを表す働き（以下、〈瞬間性〉〈時間の一時停止性〉と呼ぶ）を持つという点で分かりやすく、分析の第一歩として好適であると考えたためである。また、今後、撥音付加・オノマトペの基本要素の繰り返しなどの分析も加えることで、語形とフランス語の関連性を総合的に検討することを視野に入れている。分析の資料として今回は、多彩なオノマトペが用いられていることで知られている宮沢賢治の作品から『銀河鉄道の夜』を取りあげ、そのフランス語翻訳版と対比させながら、『銀河鉄道の夜』の原文に出現する促音付加のオノマトペとそれらにあたるフランス語訳を言語学的に対照する。なお、上述したように、宮沢賢治の作品には、文学的にも高い評価を受ける多彩で興味深いオノマトペが用いられているのであるが、今回は、そのような文学的な評価と分析は行わず、専ら言語学的な興味にしぼった検討のみを行う。フランス語翻訳版は、宮沢賢治の作品の多くを翻訳している H  l  ne Morita 氏による *Train de nuit dans la Voie lact  e* を用いる。本作品は 1989 年に発表され、翌 1990 年に日本とフランスに関する優れた研究や著作に贈られる渋沢・クロード賞を受賞している。

² 小野正弘 (2009) 『オノマトペがあるから日本語は楽しい 擬音語・擬態語の豊かな世界』平凡社, p. 28

1. 一拍要素+促音付加「Aっ」型

『銀河鉄道の夜』には、基本要素が1モーラである {A} に、促音が付加した「Aっ」型が、24回、9種類見られた。対応するフランス語も以下に示す。フランス語翻訳版において、オノマトペに対応するものがない場合は、なしとする（以下、同様）。

さっ	(なし) / soudain
ざっ	d'environ
じっ	immobiles / fixement / fixait / (なし) / sans ciller / fixement / fixé / fixement / tout raides
すっ	en douceur / (なし)
ずっ	beaucoup
そっ	doucement / (なし) / déposa / à voix basse
ばっ	d'un seul coup
ぱっ	très / d'un seul coup / brusquement
ほっ	petit soupir

促音付加「Aっ」型オノマトペがフランス語に訳出されたのは、全20例であった。

以上の促音付加されたオノマトペとフランス語訳の関係について、上述したように、これらの訳語（句）に、ニュアンスとして、〈瞬間性〉あるいは〈時間の一時停止性〉が看取されるのかを検討する。これらの訳語（句）のなか

で、〈瞬間性〉あるいは〈時間の一時停止性〉が示されていると判断されるものは、

soudain (突然の) immobiles (不動の) fixement (動かずに) fixait
(を見据えていた) doucement (そっと) d'un seul coup (一挙に)
brusquement (突然)

である。一方、上述の性質が明示されていないと思われるものは、

d'environ (おおよそ) beaucoup (はるかに) à voix basse (小声で) très
(とても)

などである。ここから、促音付加「Aっ」型オノマトペがフランス語訳された全20例中、11例(7種類)において、促音付加による〈瞬間性〉あるいは〈時間の一時停止性〉が、訳出されていることが確認できた。その実例として、「じっ」と *fixement* が対応しているものを挙げる。

- (1) みんなもじっと河を見ていました。

De même, tous regardaient la rivière fixement.

“De même-ADV, tous-SBJ.PL regardaient-PST.PL la rivière-
OBJ.SG fixement-ADV. ”

“同じように、みんなが動かずに川を見ていました。”

〈視線をそらさないで、ものをよく見つめるさま。つくづく〉³を意味する

- (1) 「じっ」が、フランス語翻訳版では、 *fixement* 〈じっと、目を凝らし

³ 小野正弘編(2007)『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館, p. 165

て)と訳されている。regardaient〈を見ていた, 眺めていた〉(直説法半過去)には〈瞬間性〉〈時間の一時停止性〉は含まれていないが, 後述する副詞 **fixement** によって, 「じっ」の促音付加による〈瞬間性〉〈時間の一時停止性〉が表されている。**fixement** は, **fixer** の派生形であるから, 〈固定したかたちで〉というのが原義で, 〈今までの動きを止めて〉という含意があるため, 〈時間の一時停止性〉が認められる。

一方, (1)と同じ意味の「じっ」であっても, そのフランス語訳に, 促音付加による〈瞬間性〉あるいは〈時間の一時停止性〉の看取されない例もある。

- (2) そこに学生たち町の人たちに囲まれて青じろい尖ったあごをしたカムパネルラのお父さんが黒い服を着てまっすぐに立って右手に持った時計をじっと見つめていたのです。

Là, entouré d'élèves et de gens de la ville, son menton pâle en avant, le père de Campanella vêtu d'un habit noir était debout, très droit, et observait sans ciller une montre qu'il tenait de la main droite.

<< C'est la Symphonie du Nouveau Monde ! >> dit à voix basse la petite fille comme si elle se parlait, en regardant par là-bas.

“Là, entouré-ADJ d'élèves-N.PL et de gens-N.PL de la ville, son menton-N.SG pâle-ADJ en avant, le père-SBJ.SG de Campanella vêtu-ADJ d'un habit noir-ADJ était-PST.SG debout-ADJ, très droit-

ADJ, et observait-PST.SG sans-PREP ciller-INF une montre-OBJ.SG
qu'il-SG tenait-PST.SG de la main droite. ”

“そこに、学生たちや町の人たちに囲まれて、青白く前に張り
出た顎をした、カムパネルラのお父さんが黒い服を着てまっす
ぐに立ち、右手に持った時計をまばたきせずに注視していたの
です。”

(2) 「じっ」のフランス語の訳語、*sans ciller* 〈まばたきすることなしに〉の
前に *observait* 〈を注視していた〉という動詞が見られる。(1)の *fixement*
と同じ派生語、*fixait* 〈を見据えていた〉と訳することも考えられるが、こ
こでは、既出の *fixait* と同じ表現を避けるために *observait* と動詞を変え、
sans ciller を加えることによって表したと推測する。「じっ」にあたる *sans*
ciller は、*sans* に不定法が続き、〈することなしに〉と裏の意味から説明し
たものである。よって、*observait sans ciller* では、目を離さず念入りに見つ
めるという内容は汲んでいる。しかし、*sans ciller* は、それまで盛んにして
いた瞬きを停止したということにはならないため、*sans ciller* のみでは、促
音付加による〈瞬間性〉あるいは〈時間の一時停止性〉は含まれているとは
言えないだろう。

2. 二拍要素+促音付加「ABっ」型

第二に、基本要素が2モーラである {AB} に、促音が付加した「AB
っ」型は、21回、14種類出現した。対応するフランス語との組み合わせ
は、次の通りである。

ぎくっ	sursauta de surprise
きちっ	serra
きらっ	jetant une brève lueur
ぎらっ	luisantes / brefs éclairs
くすっ	pouffer de rire
くるっ	tourne
すきっ	immobiles / absolument
ぞくっ	frisson
ちらっ	en un clin d'œil / jeta un bref regard / jeta dessus un petit coup d'œil oblique / très vite / en un clin d'œil
どきっ	se sentit inquiet
ピカッ	étincelait à la lumière
びたっ	hop ! ⁴ / net
ひらっ	en un éclair
ぽかっ	d'un coup

以上の訳語（句）のなかで、〈瞬間性〉あるいは〈時間の一時停止性〉が示

⁴ hop は、Enckell et Rézeau (2003) によると、唐突さまたは過程の素早さを表すとされ、不意の動きすなわち〈瞬間性〉が表現されている。ただし、それだけでは、「びたっ」の持つ、動きの停止するニュアンスまでは言い表せていないことにも注意しておく必要がある。

されていると判断されるものは、

sursauta de surprise (驚きに思わず飛び上がった) serra (ぎゅっと引き締めた) jeta une brève lueur (束の間の閃光を放った) brefs éclairs (束の間のきらめき) pouffer de rire (思わず噴き出す) en un clin d'œil (一瞬のうちに) jeta un bref regard (束の間のまなざしを投げた) jeta dessus un petit coup d'œil oblique (横目でちらっと見た) très vite (とても速く) hop (それっ) en un éclair (一瞬のうちに) d'un coup (一挙に)

の、13例(12種類)である。一方、上述の性質が明示されていないと思われるものは、

tourna (を回った) absolument (絶対に) frisson (震え) se sentit inquiet (不安に感じる)

など7例である。ここから、促音付加「ABっ」型オノマトペのフランス語訳においては、促音付加による〈瞬間性〉あるいは〈時間の一時停止性〉が、高い割合で訳出されていたと言える。その際、〈瞬間性〉ないし〈時間の一時停止性〉が、単一の語ではなく数語の組み合わせで表現されていることにも気づく。すなわち、2モーラの基本要素に促音が付加された日本語オノマトペの語としての特性は、複数の語を組み合わせることで表現されるのである。これは、前節で見た1モーラの基本要素に促音が付加されたものでは、フランス語1語で言い表せたものが多かったことと対比的である。つまり、2モーラの基本要素に促音付加されたタイプの日本語オノマトペは、それだけ微妙なニュアンスを有していて、フランス語1語ではまかないきれないということである。しかしそれは、逆に言えば、そうすることで、日本語オノマトペの特性は、フランス語でも十分に言い表すことができるということでもあ

る。

具体的な例を挙げてみると、まず、「きらっ」「ぎらっ」と、「ちらっ」の1例のフランス語訳には、〈(時間的に)短い、束の間の〉を意味する形容詞 *bref* が含まれていることに気づく。「きらっ」の例を挙げる。

(3) 「君たちは参観かね。」その大学士らしい人が、眼鏡をきらっとさせて、こっちを見て話しかけました。

« Vous visitez ? » fit l'homme aux allures de diplômé supérieur qui regarda vers les enfants, ses lunettes jetant une brève lueur.

“« Vous-SBJ.PL visitez-PRS.PL ? » fit-PST.SG l'homme-SBJ.SG aux allures-F.PL de diplômé-ADJ.SG supérieur-ADJ.SG qui-REL regarda-PST.SG vers les enfants-OBJ.PL, ses lunettes-F.PL jetant-PRS.PTCP une brève-ADJ_lueur-F.SG.”

“「あなたたちは訪問に来ましたか」大学士らしき人が、子どもたちの方を見ました。眼鏡は束の間のきらめきを放っています。”

(3) 「きらっ」〈一瞬明るく鋭く光るさま⁵〉が、*brève lueur* 〈束の間の閃光、きらめき〉と訳されている。〈(時間的に)短い、束の間の〉を意味する形容詞 *bref* の女性形単数 *brève* が付加され、「きらっ」の持つ〈瞬間

⁵ 小野正弘編(2007)『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館, p. 76

性)を明確に表現する要素として働いているのである。ただし、「きらっ」の持つ〈明るさ〉のような、光の強さの度合いまでは示し得ていないということも分かる。

次に、「ABっ」型オノマトペの促音付加による〈瞬間性〉あるいは〈時間の一時停止性〉がフランス語訳に看取されない例を見よう。

(4) 青年はぞくっとしてからだをふるうようにしました。

Le jeune homme eut un frisson et son corps parut s'agiter.

“Le jeune homme-SBJ.SG eut-PST.SG un frisson-OBJ.SG et son corps-SBJ.SG parut-PST.SG s'agiter-INF.”

“青年は身震いをして、体が揺れているようでした。”

(4)「ぞくっ」は〈寒さや恐ろしさで一瞬身のふるえるさま〉⁶を表す。そのフランス語訳 *frisson* 〈(寒さ、悪寒による)震え, 身震い〉は、「ぞくっ」の持つ、身が震えるさまを示しているが、「ぞくっ」の持つ一瞬の震えの〈瞬間性〉は看取されない。ここでは、*frisson* という名詞が単独で出現しているが、〈瞬間性〉を表すには、形容詞など何かしらの要素が必要であるからではないか。

3. 一拍要素+長音付加+促音付加「Aーっ」型

⁶ 小野正弘編(2007)『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館, p. 228

第三に、基本要素が1モーラである{A}に、長音と促音が付加した「Aーっ」型は、24回、9種類見られた。対応するフランス語も以下に示す。

さあっ étincelait / d'un seul coup

ざあっ (なし)

すうっ (なし) / très vite / d'un seul coup

ずうっ toute (...) très / (なし) / très / tout à fait / extrêmement / très /
tout à fait / beaucoup plus / beaucoup mieux / sans cesse

ぼうっ voilé / voilée / légèrement / indistinctes / d'un coup / s'embruma

促音付加「Aーっ」型オノマトペがフランス語訳されたのは、全19例であった。

これらの訳語(句)のなかで、〈瞬間性〉あるいは〈時間の一時停止性〉が示されていると判断されるものは、

très vite (とても速く) d'un (seul) coup (一挙に)

の4例である。一方、上述の性質が明示されていないと思われるものは、

étincelait (輝いていた) tout à fait (完全に) extrêmement (極めて)
sans cesse (絶えず)

など16例である。ここから、促音付加「Aーっ」型オノマトペのフランス語訳においては、促音付加による〈瞬間性〉あるいは〈時間の一時停止性〉が、ほとんど訳出されていなかったと言える。ただし、これらの訳出の複数にわたって、前節でも見た d'un (seul) coup が含まれているのは注目すべきである。これによって、〈瞬間性〉を表現しようとしていたことが看取される。

まず、促音付加による〈瞬間性〉〈時間の一時停止性〉が、フランス語訳に見られた例を挙げる。

- (5) けれどもそのときはもう硝子の呼子は鳴らされ汽車はうごき出しと思ううちに銀いろの霧が川下の方からすうっと流れて来てもうそっちは何も見えなくなりました。

Cependant, à cet instant, le sifflet de verre retentit, le train s'ébranla, un brouillard argenté monta très vite de l'aval et on ne put dès lors plus rien distinguer par là-bas.

“Cependant, à cet instant, le sifflet-SBJ.SG de verre retentit-PST.SG, le train-SBJ.SG s'ébranla-PST.SG, un brouillard-SBJ.SG argenté-ADJ monta-PST.SG très vite-ADV de l'aval et on-SBJ.SG ne put-PST.SG dès lors plus rien distinguer-INF par là-bas.”

“けれども、そのとき、硝子の呼子は鳴り、汽車は動き出し、銀色の霧が川下の方からとても速くたちこんできて、もうそっちは何も見えなくなりました。”

(5) 「すうっ」は〈静かに、ものごとが進んだり変化したりするさま〉⁷を表す。そのフランス語訳 *très vite* 〈とても速く〉は、素早く変化したりするさまが読み取れることから、「すうっ」の持つ〈瞬間性〉が看取されていると言える。しかし、「すうっ」の持つ〈静か〉なニュアンスは含まれておらず、〈瞬

⁷ 小野正弘 編『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館, 2007, p. 199

間性)しか描写されていないこともわかる。

一方で、促音付加による〈瞬間性〉〈時間の一時停止性〉が、フランス語訳では読み取れないものの例を挙げる。

(6) ぼくが行くと鼻を鳴らしてついてくるよ。ずうっと町の角までついてくる。

Quand je vais là-bas, il me suit en jappant gentiment. Il me suit sans cesse jusqu'au coin de la rue.

“Quand je-SBJ.SG vais-PRS.SG là-bas, il-SBJ.SG me-OBJ.SG suit-PRS.SG en jappant gentiment-ADV. Il-SBJ me-OBJ.SG suit-PRS.SG sans cesse-ADV jusqu'au coin de la rue.”

“ぼくがそこへ行くと鼻を鳴らしてついてくるよ。町の角まで絶えずついてくる。”

(6) 「ずうっ」は〈ある状態が長い間続くさま。始めから終わりまで。その間じゅう。ずっと。〉⁸を表す。もとの「ずっ」は、〈性質・距離・時間などについて、大きな隔たりや差があるさま、はなはだしい開きがあるさま〉⁹という意味で用いられるが、認知意味論的には、[隔たりは滑りと停止だ]というようなテーゼが可能のように考えられる。つまり、〈重量感を伴った長い滑りがあるところで停止する〉ことによって、隔たりが生まれるわけである。そ

⁸ 小野正弘 編『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館, 2007, p. 206

⁹ 同上, p. 199

う考えると、やはり、「ずっ」と「ずうっ」は、〈時間の一時停止性〉が関与すると判断される。一方で、フランス語訳 *sans cesse* 〈絶えず〉は、長い間ついでくるさまを示しているものの、促音付加による「ずうっ」の持つ〈瞬間性〉〈時間の一時停止性〉は *sans cesse* では読み取れない。

4. フランス語訳 *d'un (seul) coup*

ここで、一拍要素＋促音付加，二拍要素＋促音付加，一拍要素＋長音付加＋促音付加を縦断している要素である，フランス語訳 *d'un (seul) coup* に注目する。

第一に、「ぱっ」「ぱっ」に対応した成句 *d'un seul coup* の場合を見てみる。

(7) 俄かに，車のなかで，ぱっと白く明るくなりました。

Brusquement, l'intérieur de la voiture s'éclaircit d'un seul coup en une lumière blanche.

“*Brusquement-ADV, l'intérieur-SBJ.M.SG de la-ART voiture-OBJ.F.SG s'éclaircit-PST.SG d'un-ADJ seul-ADJ coup-M.SG en une-ART lumière-F.SG blanche-ADJ.F.SG.*”

“突然に，車の中が，一挙に白い光で明るくなりました。”

(7) 「ぱっ」は、〈急に明るくなるさま。電気がついたり、火がつくさま〉¹⁰を意味する。一瞬で明るくなるさまが、オノマトペの基本要素に促音を付加することで表されている。一方、フランス語翻訳版では、「ぱっ」の促音を持つ〈瞬間性〉が、*d'un seul coup* 〈一挙に、一度に；突然に〉という同じ成句に訳されている。*d'un seul coup* には、「ぱっ」の促音を持つ〈瞬間性〉が含まれている。

また、「ぽかっ」にあたるフランス語は *d'un coup* であるが、これは、上記の「ぱっ」の訳語 *d'un seul coup* から *seul* 〈ただ一つの、唯一の；ただ…だけの〉が除かれたものである。

- (8) そして二人がそのあかりの前を歩いて行くときはその小さな豆いろの火はちょうど挨拶でもするようにぽかっと消え二人が過ぎて行くときまた点くのでした。

Puis lorsque les deux enfants passèrent devant chacune de ces lumières, la petite flamme couleur de haricot s'éteignit d'un coup comme pour les saluer et se ralluma quand ils l'eurent dépassée.

“Puis lorsque les deux-ADJ.PL enfants-PL passèrent-PST.PL devant chacune-ADJ.F de ces lumières-F.PL, la petite-ADJ.F.SG flamme-SBJ.F.SG couleur-F.SG de haricot-M.SG s'éteignit-PST.SG d'un-

¹⁰ 小野正弘 編『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館, 2007, p. 341

ADJ coup-M.SG comme pour les-OBJ saluer-INF et se ralluma-
PST.SG quand ils-M.SG l'eurent-PST.P dépassée-PST.PL.”

“そして、二人の子どもたちがそれらの明かりの前を通った時、豆色の小さな炎が、彼らに挨拶するように一挙に消えて、また、彼らがそれを過ぎていくと、再び点くのでした。”

(8) 「ぼかつ」〈軽く浮かび上がるさま。急にある思いや記憶などが生じるさま〉¹¹を用いて、小さな火が急に、まるで思いついたかのように消えるさまが表現されている。その訳である、*d'un coup* によって、〈瞬間性〉が明瞭に表現されている。ただし、「ぼかつ」の持つ〈軽さ、唐突さ〉までは表せてはいない。

第三に、「ぼうっ」〈意識が抜けたりとんだりしているさま。ものの形が不明瞭に見えるさま〉¹²にあたるフランス語は、「ぼかつ」の訳語と共通した *d'un coup* である。「ぼうっ」の具体例を挙げる。

(9) さぎというものは、みんな天の川の砂が凝って、ぼおっとできるものですからね、

Ce qu'on appelle des hérons, c'est tout simplement du sable de la rivière du ciel qui s'est solidifié et qui... d'un coup, s'est transformé ;

¹¹ 小野正弘 編『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館, 2007, p. 433

¹² 同上 p. 431

“Ce-SG qu'on-2PL appelle-3PRS.SG des hérons-M.PL, c'-SG est-3PRS.SG tout-ADV.SG simplement-ADV.SG du sable-M.SG de la rivière-F.SG du ciel-M.SG qui-REL s'est-3PST.SG solidifié-3PST.SG et qui-REL... d'un-ART coup-M.SG, s'est-3PST.SG transformé-3PST.SG ; ”

“私たちがさぎと呼ぶものは、単に天の川の砂が固まって、一挙にできるものです”

(9)では、「ぼうっ」によって、形が定まっていないところから出来上がっていくさまが示されている。訳語の *d'un coup* では、急にさぎが現れるような描写であり、出現の〈瞬間性〉を表現することには成功している。しかし、ただ〈瞬間性〉を表すだけにとどまっているという面も否めない。

おわりに

本論文では、基本要素に促音付加したタイプのオノマトペを対象に、促音付加の持つ〈瞬間性〉あるいは〈時間の一時停止性〉がフランス語訳においても明示されているかどうか検証した。

原文の促音付加の性質がフランス語翻訳版でも読み取れるものの割合は、促音付加「Aっ」型の訳語が55%、促音付加「ABっ」型の訳語が62%、長音・促音付加「Aーっ」型の訳語が21%であった。ここから、基本要素に促音付加型のオノマトペをフランス語訳する場合には、なんらかのかたちで、〈瞬間性〉や〈時間の一時停止性〉を表現しようと試みていることと、促音付加のオノマトペ「Aっ」型「ABっ」型の訳語の方が、長音・促音付加のオノマトペ

「Aーっ」型の訳語よりも、促音付加の性質が表されていることが多いことが明らかになった。

加えて、促音付加のオノマトペ「ばっ」「ぱっ」「ぽかっ」「さあっ」「すうっ」「ぼうっ」が仏訳されると、共通した成句 *d'un (seul) coup* として現れる場合があることも確認できた。すなわち、フランス語の *d'un (seul) coup* は広いニュアンスを持つが、日本語のオノマトペと対応することによって、〈瞬間性〉ならびに〈時間の一時停止性〉を積極的に表現しつつ、異なった意味に対応しようと、述べることも可能であり、このような情報は、フランス語母語話者の日本語学習者にとっても有用な情報となろう。

〈引用文献〉

小野正弘編『擬音語・擬態語4500 日本語オノマトペ辞典』小学館，2007
—『オノマトペがあるから日本語は楽しい 擬音語・擬態語の豊かな世界』
平凡社，2009

宮沢賢治『新修宮沢賢治全集 第十二巻』筑摩書房，1980

Enckell, P. et P. Rézeau, *Dictionnaire des onomatopées*. Paris, Presses Universitaires de France, 2003.

Miyazawa, Kenji. *Train de nuit dans la Voie lactée*, traduit par Hélène Morita, éditions Le Serpent à plumes, 1989.

〈参考文献〉

小野正弘「オノマトペ素の加工と展開—近代小説を視野に入れながら—」第
287 回日本近代語研究会資料，2011

- 『感じる言葉 オノマトペ』 角川選書, 2015
- 「オノマトペの対照研究のために-中国語に擬態語はありますか?-」
『日中言語対照研究論集』 第 19 号, 2017
- 「宮沢賢治初期童話作品のオノマトペ-基本要素からの加工と展開-」
『感性の方言学』 ひつじ書房, 2018
- 窪菌晴夫編『オノマトペの謎 ピカチュウからモフモフまで』 岩波書店, 2017
- 小学館ロベール仏和大辞典編集委員会 編『小学館ロベール仏和大辞典』 小学館, 1988
- 田守育啓『賢治オノマトペの謎を解く』 大修館書店, 2010
- 日本国語大辞典第二版編集委員会, 小学館国語辞典編集部編『日本国語大辞典』 小学館, 2000
- 山口仲美 編『擬音語・擬態語辞典』 講談社学術文庫, 2015
- Delas, D. et D. Delas-Demon. *Dictionnaire des idées par les mots*. Paris, Le Robert, 1991.
- Ishino, K. « Sur les expressions onomatopéiques de l'émotion en japonais. »
Cognition et émotion dans le langage (慶応大学 COE プロジェクト・シンポジウム 「心と感情の言語表現」 報告書) 慶應出版, pp.105-115, 2016
- Nodier, Charles. *Dictionnaire raisonné des onomatopées françaises*, 1808.
<<http://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k123239j>> (accessed Jan. 8, 2016)
- Le Grand Robert de la langue française : du dictionnaire alphabétique et analogique de la langue française, 2e éd*, Paris, Dictionnaire Le Robert, 2001.
- Le Trésor de la Langue Française Informatisé <<http://atilf.atilf.fr>>

